

＊ ニュースレター ＊

2005年 Summer Vol.11 (2005年8月発行) より



会員みなさまへ
[人々の幸福に貢献するために、認定医・認定士の増強を](#)
日本歯科審美学会 副会長 木村幸平

セミナーのご案内
[すべての人に白い歯を！ これから始めるホワイトニング](#)



第16回日本歯科審美学会学術大会のご案内
[傾聴・共感・共生と歯科審美](#)
大会準備委員長 宮内修平

[アメリカ審美歯科学会に参加して](#)

[JACD学術大会「アジアビューティ」](#)

日本歯科漂白研究会会長
日本歯科審美学会監事 松尾 通



優秀発表賞受賞者のご紹介
[学会優秀発表賞を受賞して（第13回学術大会）](#)
東北大学大学院歯学研究科
口腔修復学講座咬合機能再建学分野 五十嵐奈美



優秀発表賞受賞者のご紹介
[第14回日本歯科審美学会学術大会優秀発表賞を受賞して](#)
鹿児島大学大学院医学総合研究科先進治療科学専攻
顎顔面機能再建学講座口腔顎顔面補綴学分野 濱野 徹



優秀発表賞受賞者のご紹介
[第15回日本歯科審美学会大会デンツプライ賞を受賞して](#)
若林歯科歯周病研究所 佐藤宏敏

[委員会報告](#)

[広島大学病院に自費専門の歯科衛生士外来を設置](#)

広島大学病院診療支援部歯科衛生部門歯科衛生士外来 田村 裕子
広島大学病院むし歯・変色歯診療科 富士谷盛興
広島大学病院主席副病院長 岡本 哲治

| [Back](#) |

Copyright © Japan Academy of Esthetic Dentistry, All rights reserved.



2005年 Summer Vol.11 (2005年8月発行) より

会員のみなさまへ



人々の幸福に貢献するために、認定医・認定士の増強を
日本歯科審美学会 副会長 木村幸平

わが学会は、歯科審美学を「顎口腔における形態美・色彩美・機能美の調和を図り、人々の幸福に貢献するための教育および学習に関する学問体系である。」と定義し、色々な切り口から展開してきた学際的な学会である。その構成員は、歯科医師、歯科技工士、歯科衛生士、研究者、企業人と歯科医療に携わる多くの人々から成っている。

現在の状況に何らかの閉塞感を抱いているのは私だけなのだろうか？ 歯科界はもとより我が国全体に言える事であるが、歯科医療においては、この閉塞感を打破するために歯科審美が発信源となり突破口になるべきであろうと私は考える。

健康保険制度ならびに歯科医師数の増加などにより、基本的に国民の顎口腔系の状況は歴史的に見て向上し効果をあげてきたが、近年医療費の総枠はその財政的制約から抑制され、特にその中に占める歯科医療費の割合は低迷し、歯科医療の経済的基盤は危うい状況にある。さらに健康保健制度では高度・先進化している歯科医療をカバーする事が出来ず、限界がある。一方、巷では相変わらずバッグや高級車等の「ブランド物」に対する要求は依然として高いのは何故であろうか？

それは、言うまでもなくクオリティーの高さと同時に使用者側のメンテナンスの良さに裏付けられて総合的に評価されているからであろう。

歯科審美学会認定医・認定士をオーラルエステティックコーディネーター（仮称）と位置付け、その質・数を増強する。認定医・認定士は、歯科審美学領域における診断と治療のための高い医療技能（専門性）を修得し、他診療科歯科医師や患者さんからの要請に応じて、総合的な診療計画を立案・提示し、患者さんに適切な指示を与えると共に患者さんからの要求を高めることのできる能力を有する必要がある。

そして各認定医・認定士は、責任の負える範囲を明確にした確固たる専門分野を持つと共に、認定医・認定士相互間のネットワークを系統的に強固にし、オーラルエステティックコーディネーター（仮称）を中心に連携しあい総合的に治療を進める。この目的を達成する為には、特に予防歯科・口腔外科・矯正歯科等の専門分野等の先生方の更なる本学会への参加を希望したい。

2005年 Summer Vol.11 (2005年8月発行) より

セミナーのご案内

すべての人に白い歯を！ これから始めるホワイトニング

患者さん誰もが白い歯を望んでいます。そしてその希望を叶えてあげられるのは歯科医師だけです。本セミナーは、これからホワイトニングを始めようとする歯科医師とスタッフを対象に企画しました。

(委員長 田上順次)

-
- 日時／ 2005年7月17日(日) 午前10:00～午後4:00
 - 場所／ 東京医科歯科大学歯学部特別講堂
東京都文京区湯島1-5-45
JR中央線・総武線、東京メトロ丸の内線『御茶ノ水』駅 徒歩1分
 - 講演内容／ 「ホワイトニングについての基礎知識」「適切なインフォームドコンセント」福島正義(新潟大学歯学部口腔生命福祉学科 教授)
「患者さんの満足を得るために」「効果的なホワイトニングのテクニック」永井茂之(永井歯科診療室 院長)
 - 対象／ 歯科医師・歯科衛生士・歯科技工士
 - 参加費／ (会員) 1,000円 (非会員) 3,000円
(学生) 無料(歯学部・歯科衛生士学校・歯科技工士 学校の学生。会員の推薦が必要です。会員を通して 事務局にお申し込みください。)

～ハンズ・オン・セミナー～

7月18日(月)に模型・抜去歯を用いた実習を開催します。上記セミナーの受講が条件ですが、是非、合わせてご参加下さい。

- 対象／ 7月17日のセミナーを受講した歯科医師
- 参加費／ (会員) 3,000円 (非会員) 5,000円
- 場所／ 株式会社松風東京支社研修室
東京メトロ千代田線『湯島』駅、JR山手線『御徒町』駅

第2回セミナーは11月3日(祝・木)、第3回セミナーは平成18年3月21日(祝・火)に予定されています。

-
- 申込及び問い合わせ先／

申込用紙に必要事項をご記入いただき、セミナー事務局まで FAXにてお送り下さい。

日本歯科審美学会セミナー事務局

Eメール：gakkai2@kokuhoken.or.jp

FAX：03-3947-8873 TEL：03-3947-8761

| [Back](#) |

2005年 Summer Vol.11 (2005年8月発行) より

第16回日本歯科審美学会学術大会のご案内



大阪国際会議場
(グランキューブ大阪)

傾聴・共感・共生と歯科審美
大会準備委員長 宮内修平

日本歯科審美学会学術大会が14年ぶりに大阪の地で開催されます。

今大会では、主会場においてメインテーマの「傾聴・共感・共生と歯科審美」を中心に特別講演等、著名な講師の講演を予定しています。また、クリニカルセミナーやランチョンセミナーにおいては、審美歯科臨床における多様なニーズに対応するべく、技術の習得や材料・製品に対する知識や情報を収集していただけるような興味深い企画を準備いたしました。参加される方々に必ずご満足いただけるようなプログラムでございます。多くの方々のご参加をお待ち申し上げます。

【会 期】

平成17年10月8日（土）・9日（日）

【会 場】

大阪国際会議場（グランキューブ大阪）
〒530-0005 大阪市北区中之島5-3-51
TEL:06-4803-5555（代表）

【学会内容】

会長講演 田上順次（東京医科歯科大学大学院教授）

基調講演 『受診者の安心・満足』 藤崎和彦（岐阜大学医学教育開発センター助教授）

特別講演 『笑い与健康』 志水 彰（関西福祉科学大学学長）

招待講演

『Esthetic Art with Procera on Teeth and Implants』 ダリオ・アドルフィー（ブラジル）
『インプラントアンカーによる矯正治療』 白 哲鎬（韓国）

教育講演

『定期管理におけるカリオロジーの視点からの注意点』 藤木省三（神戸市）

『効率的な支台歯形成』 宮内修平（大阪市）

『患者さんの要望に応えたインプラント治療』 波多野尚樹（さいたま市）

『患者さんから評価される審美修復を目指して』 高橋英登（東京都）

『歯周形成外科最近の進歩』 伊藤公一（日本大学歯学部教授）

『オールセラミックレストレーションの変遷』 中村隆志（大阪大学大学院）

クリニカルセミナー

『顔面の審美情報とその生かし方』 保母須弥也（前奥羽大学学長）

『新しい4-seasonsの臨床応用について』 六人部慶彦（大阪大学大学院）

『MI審美接着修復のための戦略』 富士谷盛興（広島大学大学院）

『審美的な総義歯製作』 中込敏夫（東京都・歯科技工士）

『インプラント治療最前線』 梅津清隆（東京都）

『インプラント審美修復のためのプロセラ』 増田長次郎（姫路市・歯科技工士）

『歯槽堤造成術を応用した審美的インプラント治療』 堀内克啓（五條市）

『日本の歯科を考える・エンジェルクラウン』 若林一道（大阪大学大学院）

『ポーセレンラミネートベニアへの提案』 山田和伸（名古屋市・歯科技工士）

『セルコンスマートセラミックス・限らない審美を目指す』 三浦賞子（東北大学大学院）・立花誠（デンツプライ三金株式会社）

『ファイバーポストによる支台築造』 松川敏久（橿原市）

『ケアゾーンのスキルアップ』 谷垣裕美子（神戸市・歯科衛生士）

『インプラント周囲組織とその審美』 中島 康（高石市）

『ポーセレンラミネートベニア審美修復治療におけるマイクロスコープの応用』 大河雅之（東京都）

『審美歯科におけるマイクロデンティストリー』 南 昌宏（大阪市）

『KTPレーザーによる次世代のティースホワイトニング』 演者未定

ランチオンセミナー

『プロビジョナルを考える』 三浦宏之（東京医科歯科大学大学院）・高井基普（東大阪市）

『インプラントと審美修復』 福島一隆（東京都）

『成功する実践ホワイトニングとは』 須崎 明（愛知県西春日井郡）

『ホワイトコートの特徴と臨床応用について』 大森かをる（鶴見大学歯学部）

『積層法を用いたダイレクトボンディング』 伏島歩登志（株式会社ジーシー研究所）

一般講演（ポスター発表）・器材展示

【会員懇親会】

日 時：平成17年10月8日（土）学術大会1日目終了後

場 所：リーガロイヤルホテル 光琳の間 参加費：10,000円

【事前登録お申し込み方法】

学会誌17巻2号の綴じ込み郵便振替用紙に必要事項をご記入の上、9月10日までにご送金ください。

【照会先】

〒170-0003 東京都豊島区1-43-9 駒込TSビル3F

口腔保健協会内 日本歯科審美学会事務局 TEL.03-3947-8891

| [Back](#) |

2005年 Summer Vol.11 (2005年8月発行) より

アメリカ審美歯科学会に参加して

2005年4月19日から23日までアメリカ、ナッシュビルで行なわれたAmerican Academy of Cosmetic Dentistry (AACD、アメリカ審美歯科学会) に出席してきたので報告する。

AACDは今回で21回目を数え、会員数が8千人、今回の参加者も4千人というアメリカ最大の審美学会である。毎年テーマが決まっており、今回は“Significant Science Magnificent Art”。多くの講演やハンズオン・セミナーから参加者が自分の好きな講演を選んで出席するもので、当然人気のあるスピーカーはすぐに一杯となってしまう。数年前から全てのセッションが事前登録制となり、申し込んでいない参加者は当日、空いているコースをボードで確認して申し込んだり、キャンセル待ちをしたりするのだが、今年の参加者は予想以上に多くなり、殆どのコースが満員状態で、当日どこにも登録できないケースが多く見られた。また、昨年まで参加費のほかにエキストラ・チャージがかかっていたハンズオン・セミナーは、全てにスポンサーが付き、参加費が無料になった。そのためこれも大人気となり、半年以上前に申し込んだのにキャンセル待ちというコースもあった。日本からの参加者は東京の高橋先生、江夏先生と私のみでここ最近では最低の3人。ちょっと寂しかったが、アメリカの学会を満喫してきた。

登録ブースはすでに18日から開いており、20日朝のオープニング・ゼネラルセッションまではビジネス・ミーティングや認定医試験のためのレクチャーなどが行なわれる。19日のゼネラルセッションでは2002年にヒットしたスピルバーグの映画“Catch Me If You Can”の原作者Frank Abagnale氏によるトークショーが行なわれた。この物語は彼の実際の体験をもとに書かれており、その成功秘話を話してくれたのだが、3000人ほど入れるメイン会場は早朝にもかかわらず一杯だった。

メインのセッションでは最新のテクノロジーを使った講演が多く見られた。今年も相変わらずダイレクト・ボンディングの講演、ハンズオンが最も多かったのだが、特筆すべき点は殆どがナノハイブリッド・コンポジットを使用したものになっており、数年前に一時代を築いたハイブリッド+マイクロフィルのテクニックはほぼ姿を消してしまった。セラミック・レストレーションではCAD-CAMを使用したタイプが主流となってきており、ラボ向けの講演もいくつか見られた。口腔内写真も従来のフィルム=ポジタイプから500万画素程度の高画質デジタルカメラによるものにとって代わり、使用方法から保存方法、活用法までを紹介していた。認定医試験でさえもデジタルカメラで受け付けるようになってきている。また、このデジタルカメラを使用したデジタル・イメージングによる患者へのプレゼンテーションの講演もあった。ただし、日本のデンタルショーでは3割くらいを占めるまでになった電子カルテは、レセプトが無いことも影響しているのか、殆ど見られない。ホワイトニングでは二酸化チタンや鉄イオンなど、過酸化水素を効果的に活性化させるための新しい物質を添加したものが発表されていた。中でもメタルハライドを使用し、鉄のイオンをリアクターとして用いるDISCUS DENTAL社の新しいホワイトニングシステム“ZOOM2”は人気があった。また、ここ数年の傾向として、成功を収めている歯科医院や、経営のアドバイザーによるマーケティングやスタッフ教育など経営に関する講演が多くなっている。日本でも最近、経営のセミナーが多く見られるようになってきたが、学会で行なわれることは少ないように思う。このあたりも日米の文化の違いか。

学会が開催されたナッシュビルという街は日本人には余り馴染みがないが、実はアメリカ人に

としてはアメリカの演歌であるカントリー発祥の地、大スター、エルビス・プレスリーを生んだミュージック・シティとしてとても有名である。その中でナッシュビルではプレスリーの次に有名といっても過言ではないカントリーのスター、ドリー・パートンによるチャリティコンサートが21日の夜に開かれた。このチャリティは“Give back A Smile”と呼ばれるドメスティックバイオレンスの被害者救済のためのイベントで、コンサート以外にも出店歯科企業を中心に商品を提供し、オークションを行なって、その売上を寄付している。このあたりが実にアメリカらしい。

学会が行なわれている間、毎晩何らかのイベントが行なわれていたのだが、毎年、土曜日の夜に行なわれる学会の打ち上げのディナーダンスは、今年は日程の関係で金曜日の夜に行なわれた。その影響もあり、打ち上げてしまった後の土曜日のレクチャーは残念ながら今ひとつ盛り上がりなかった。

もうひとつ、この学会で副会長選挙があったのだが、初めて歯科医師でない一般の人物が選ばれた。さらにこの方は女性で、歴代副会長が順番に会長になるAACDでは、数年後にはAACD史上初の一般人女性会長が誕生することになる。歯科医師ではなく、また女性を選んだという思い切った改革が、AACDが既存の概念にはとらわれず、新しい試みを行なっていくという強い信念を感じることができた。来年はサンディエゴで5月16日から20日まで行なわれる。テーマは“Pillars of Perfection”。また、数年後には再びハワイで開催されることも決定している。今後もAACDには期待していきたい。

(広報委員 椿 智之)



(左) 左から元会長Dr.D.Mayeda、筆者、今回副会長になったMiss.L.K.Brown、元会長Dr.K.Glick

(右) 左から筆者、DISCUS DENTAL社長Dr. W. Dorfman、高橋先生

| [Back](#) |



2005年 Summer Vol.11 (2005年8月発行) より

JACD学術大会「アジアンビューティ」

日本歯科漂白研究会会長

日本歯科審美学会監事 松尾 通

日本歯科漂白研究会 (Japan Academy of Cosmetic Dentistry) は、2005年4月16日 (土) ~17日 (日) の両日、日本歯科大学富士見ホールにて、第6回学術大会を開催した。

今回のテーマは「アジアンビューティ：亜州之美」である。これには2つの意味がある。

まず、欧米主導型の審美歯科が世界中を席卷しているが、アジア人のための審美歯科の確立を目指す時期がきているのではないかという考えである。

初めて米国の審美歯科学会に参加したのは1985年だが、以後3つの米国の審美歯科学会に出席し、また欧州の審美歯科学会にも出かけたが、結局は白人を中心とした審美歯科とう感じが拭いきれないでいた。

アジア人の体型、顔、皮膚の色、歯の形態や色調に合った審美歯科を考察してみたいという企画を立てたのである。

次に、今回の学会講師は日本人以外に4人の外国人講師を招聘したが、日系、中国系、韓国系と全員がアジアにルーツを持つ先生方であり、「アジアンビューティ」を語るには絶好の機会となった。

米国で始まった審美歯科が全世界へと広がるなかで、それぞれの国や地域に根差した美意識・文化・風俗にマッチした審美歯科の確立が求められる時代に入ったという認識が講師に共通していたのも新しい発見だった。

—美白の世界の拡がり—

講演内容を紹介してみよう。米国・ハワイ州で開業しているDr.ウィン・オクダは、米国美容歯科学会 (A.A.C.D) の元会長であり、特にダイレクト・レジンベニアの技法の普及に活躍している。ミス・ハワイの歯をこの技法で治したのが、ミス・アメリカ、ミス・インターナショナル受賞の機会を伸ばした幸運もあって、一躍有名になった。

Dr.ウィンのテクニックは、評価が高く、日本でもよく知られている。「デンティスト is アーティスト」が持論でもある。

Dr.キム・ジョンウーは、韓国有数の大型クリニックである“ye歯科”のCEOでもある。韓国の人気スター、ペ・ヨンジュン氏の主治医としても知られている。

今回は「韓国美容歯科事情」として、日本でブームを起こしている韓流人気スターの歯科事情を市民公開講座で話したが、多くの市民が来訪し好評であった。韓流スターのキャッチフレーズは、「スマイルとより白い歯」だということも確認できた。

Dr.エドワード・ローウェは中国系カナダ人で、バンクーバーで審美歯科医として活躍している。接着性コンポジットの基本から臨床まで、症例報告を中心にを行い、更にセラミックレストレーションとレジンとの使い分けについて示唆した。

日系米人のDr.ダニエル・マエダは、ハワイ州マウイ島で開業しているが、インプラントのエステティックス、特に前歯部について指針を述べた。インプラントも多様化しているが、基本に忠

実りがモットーである。

他にワークショップが2題、ホワイトニングの最新情報と、マニキュアについては2つの材料を取り上げ、ライブにて公開したが、歯科衛生士の参加者も多く会場は盛り上がった。

市民公開講座では、リッツカールトン・ホテルの日本支社長、高野登氏が、高級ホテルリッツカールトンの成功に導く哲学を公開し、多くの人の共感呼んだ。ホテルとクリニックには共通点があり、学ぶことが多かった。

学会は60社近い業者展示やワインテイastingパーティ、ウエルカムパーティなども併催され大盛況のうちに終了した。

なお、日本歯科漂白研究会は4月17日の総会にて、発展的解消をし、日本アンチエイジング歯科学会を設立することに決定した。

今後はアンチエイジングの立場からの（1）容姿管理、（2）体調管理、（3）寿命管理の3点を中心に学会活動を行う予定である。



2005年 Summer Vol.11 (2005年8月発行) より

優秀発表賞受賞者のご紹介



学会優秀発表賞を受賞して (第13回学術大会)

東北大学大学院歯学研究科

口腔修復学講座咬合機能再建学分野 五十嵐奈美

平成14年度日本歯科審美学会において学会優秀発表賞を受賞させて頂き、ありがとうございます。大変光栄に思っております。

補綴処置を行うに際し、形態、機能の回復と同時に審美的な面での要求が高まってきており、より自然感のある調和した色調が望まれるようになりました。現在、臨床現場で実際に広く応用されているのは視感比色法ですが、その術式も最適な環境条件も確立されてはならず、そのため補綴物の色調再現性には多くの問題点が残されています。従来、視感比色法は晴天の北空昼光で行うのが適当とされてきましたが、この方法は表面色の比較に関するものであり、蛍光、透明感、光沢といった要素をもち、層状の構造を持つ歯の色の比較にそのまま当てはめてしまってもよいものかが疑問です。また、天候、時間、治療室の構造上の問題から、様々な環境で視感比色法を行っているのが実状です。

そこで本研究では視感比色法に最適な環境条件を確立することを目的として、さまざまな環境条件下で歯科医師、歯学部学生、歯科技工士、技工士学校学生により、歯冠色の色票およびシェードガイドを用いて視感比色による等色判定を行いました。

その結果、シェードガイドの比色において環境を整備したシェードマッチングルームでの比色の精度が高いことが示されました。また、色差が大きいほど色の判別は容易であり、 L^* 、 b^* 、 a^* の順に判別が難しく、明度の差を判別しやすい条件を整えることによって、シェードマッチングの精度は向上するであろうと考えられました。

学生時代から審美的な補綴治療、特に色に関することに興味を持ち、深く勉強したいと思うようになりました。東北大学大学院歯学研究科咬合機能再建学分野に大学院生として入局後、木村幸平教授に私の興味に沿った研究テーマを与えて頂き、研究の基礎もわからない私に研究計画の立て方からその結果の解析の仕方まで細かく指導して頂きました。また、この実験を実際に行うにあたって、多くの歯科医師、技工士、学生の皆さんに被験者として協力して頂き、特に咬合機能再建学分野の先生方には実験に際して長い時間を割いていただいたばかりか、多くのアドバイスを受け、大変参考になりました。また、依田正信助教授には研究の細かな部分を丁寧に指導して頂いただけでなく、ともすれば怠けがちな私を叱咤激励して頂き、なんとか研究をまとめることができました。

多くの方々の御指導、御協力を得てこそこの受賞と、深く感謝しておりますとともに、心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。



2005年 Summer Vol.11 (2005年8月発行) より

優秀発表賞受賞者のご紹介



第14回日本歯科審美学会学術大会優秀発表賞を受賞して
鹿児島大学大学院医歯学総合研究科先進治療科学専攻
顎顔面機能再建学講座口腔顎顔面補綴学分野 濱野 徹

この度、第14回日本歯科審美学会学術大会優秀発表賞（研究報告）を受賞させていただき、誠にありがとうございました。大変光栄に思っております。

今回受賞しました発表内容は、『ガラス繊維補強型高分子材料のクラスプへの応用－繰り返し着脱が維持力に及ぼす影響について－』というタイトルで、歯科審美16巻2号に原著論文として投稿し掲載されました。

この研究に関する経過につきまして、簡単に述べることにします。

部分床義歯の重要な構成要素であるクラスプは、主に金属材料が用いられていますが、支台歯の位置やクラスプの種類により審美的に劣ることや、アレルギーの原因物質となる問題が考えられます。そこで、高度な審美性と生体親和性を兼ね備える歯冠修復システムのガラス繊維補強型高分子材料（以下、FRC）に着目し、クラスプ材料として臨床応用することを目的として研究を開始しました。

まず基礎的研究（3点曲げ試験、疲労試験）を行い、臨床応用の可能性が示唆されたため、その結果を第11回日本歯科審美学会（平成12年、北海道）において発表し、歯科審美13巻2号に投稿し掲載されました。その後も、基礎的研究を進めると同時に臨床応用を行い、その結果を本学会や関連学会（日本補綴歯科学会、ICPなど）で報告してきました。

今回の発表内容は、FRCクラスプと支台歯模型を用いたシミュレーション実験により、5,000回の繰り返し着脱が維持力に及ぼす影響について検討したものです。その結果、クラスプの維持力は、着脱回数の増加に伴い減少し、その減少程度は、支台歯の種類（硬質レジン前装冠、メタルボンドクラウン）によって異なり、また着脱回数が多くなるにつれて小さくなりました。クラスプの永久変形量は、ほとんど認められず、磨耗は、クラスプ内面に認められ、支台歯の種類により異なりましたが、支台歯にはほとんど認められませんでした。

今後は、FRCクラスプが一般的に広く臨床応用されるよう、さらに基礎的・臨床的研究を続けていく予定です。

最後になりましたが、今回の研究にあたり、終始ご指導を賜りました鹿児島大学大学院医歯学総合研究科先進治療科学専攻顎顔面機能再建学講座口腔顎顔面補綴学分野・長岡英一教授ならびに共同研究者の西恭宏講師、木下智恵助手、水流和徳助手に深く感謝いたします。



2005年 Summer Vol.11 (2005年8月発行) より

優秀発表賞受賞者のご紹介



第15回日本歯科審美学会大会デンツプライ賞を受賞して
若林歯科歯周病研究所 佐藤宏敏

この度、当学術大会のポスター・セッションに参加する機会を頂きましたことは、私達にとり大変光栄なことであり、同時に貴重な経験をさせて頂きました。参加のきっかけは、私達の勤務する医院の院長から、「ポスター・セッションに参加してみても…」との言葉でした。しかし、私達にとっては、ポスター作成は初めての経験であること、また発表や論文などについては、経験不足であろうと思いつつも、医院の院長やスタッフからの励ましを受け、ポスター・セッションに参加することに決めました。

まずポスター作成については、当学会の規格にたどりつくまで、かなりの苦勞を味わいました。しかも、アジア歯科審美学会との併催のため、ポスターから抄録まで全て英文で記載することになっており、予想外のハプニングであったことなどから、多難の連続でした。とくにポスター作成は、学会前日ギリギリまでかかってようやく完成させることが出来ました。

学会当日は、所定の位置にポスターを設定できたことの満足感を覚えたように記憶しています。そして、全てのポスター・セッション終了後、デンツプライ賞発表の際は、まさか私達が受賞するなど全く期待していなかったため、私達のポスター番号と名前が発表されたときは、自分達のことではないと思ひ、他人事のように振舞っていたことを覚えています。

ポスター発表は臨床を通して、とくに気になっていたマージン部の歯肉とメタルポーセレンの調和を色彩の観点から考えたことから、研究発表というよりトライアル的な内容を発表させて頂きました。

今回、学会の参加で感じたことは、今まで何気なく見聞きしていた講演やポスターなどは、大量の時間と労力を費やしていることを改めて解りました。そして、一つのことを成し遂げるには、何人もの方々の協力が必須であることを気付きました。さらに、私達は歯学については、もちろんのこと歯学以外の勉強もすること、経験することの重要性を学び、そして目標を大きく持つことがいかに大事かをポスター・セッションに参加したことをつうじて感じ得ました。

発表者の一名、菅原淳は今年1月、技工所を開業しましたが、今回の貴重な経験を生かし、歯学と臨床をともに学びながら邁進していこうと思ひます。

最後に、今回のポスター・セッション参加の折、ご指導頂いた若林勝夫先生、英文の翻訳、構成にご教示頂いた中村全宏先生、当医院のスタッフの皆様へ感謝致します。

委員会報告

総務報告

会員の皆様、益々ご健勝でご活躍のことと存じます。

さて、本学会の会員数は平成17年3月31日現在1,822名で、昨年度同期に比べ100名の増加となりました。会員数の伸びに悩んでいる専門学会が多い中、学際色の強い本学会は右肩上がりです。これも審美歯科への関心の高まりや非会員に対する公開プログラムの賜物と思われる。今年度の第16回学術大会は臨床家としては初めて諏訪富彦理事が大会長として10/8~9に大阪で開催され、宮内修平準備委員長が中心となって臨床家向けの数多くのプログラムが準備されています。また、今年度中には3回の公開セミナー（7/17、11/3、3/21）が企画されており、会員数の更なる増加が期待されます。会費納入率も8割を越えており、健全経営となっております。会員への情報誌である学会誌は論文区分や投稿規定の改訂により刷新され、原著論文の数よりも臨床家に役立つ読みやすい内容に充実させる方向で企画編集が進められています。学会のWeb siteは懸案であった英語版が完成し、海外へも発信できるようになりました。一度ご覧になってください。平成16年度より歯科技工士と歯科衛生士を対象にした認定士制度が始まりました。これまで7名の歯科技工士と5名の歯科衛生士がめでたく認定士を取得されました。歯科コ・スタッフのための学会認定士制度が少ない中で、本学会がいち早く取り組んだ点は大いに評価されるべきことです。今後、審美歯科医療を正しく理解し支援できる認定士の増加が急務と思われる。本学会が設立されて15年が過ぎました。これまで、学会の設立期から今日の発展に貢献のあった会員8名（故人を含む）が名誉会員に推挙され、秋の総会で認証される予定です。

審美歯科の世界的な拡大はもはや阻止することは出来ません。本学会を含めた3団体から立ち上がったIFED（国際審美歯科連盟）も現在21団体で構成されるまでに成長し、まだ加盟申請中の団体があるほどです。是非IFEDのWeb site (www.ifed.org) をご覧になり、世界の勢いを感じてみてください。

（総務担当常任理事 福島正義）

編集委員会

18巻2号（平成18年3月）から、講演論文が事後抄録に変わります。投稿規定に例を記載していますので、参考になさってください。

この変更を機会に、「歯科審美」のA4版化（変形）について検討を始めました。A4版化のメリットとデメリットを比較して、経費節減などメリットの方が大きいことから、表紙の体裁変更も含めて、19巻1号（平成18年9月）から刷新する予定です。また、雑誌の発送費節減のため、封筒に業者名が入りますが、学術刊行物よりも安い冊子小包に切り替える予定です。

さらに、認定医のケースプレゼンテーションの内容を「歯科審美」に論文として掲載することを検討していましたが、認定審議会の末瀬委員長のご決断で実現の運びになりました。この論文

は、臨床の貴重な情報源となるだけでなく、認定医申請のための参考にもなり、「歯科審美」の魅力向上に寄与するものと確信しています。このことは、認定審議会と編集委員会の連携の成果といえますが、編集委員としてもご活躍の末瀬委員長はじめ認定審議会委員各位のご尽力に負うところが大きく、ここに感謝の意を表します。この他、編集委員会としては、学術大会の発表者に発表内容を論文として投稿していただくための連携策を検討中です。誌面充実のためにも、論文執筆をお願いいたします。

独立行政法人科学技術振興機構（JST）の電子アーカイブ対象誌選定委員会（黒川清委員長）事務局から、電子アーカイブ対象候補誌基礎調査への協力依頼がありました。調査に協力することに問題はないと考え、学術上重要と思われる論文3編を理事の先生方に推薦していただき、推薦の多かったものを選出して、調査書類を整えて提出しました。しかしながら、採用には選定委員会の厳しい審査をパスしなければなりません。誌面の質的向上も必要です。

会員の皆様のご要望に添うよう努力いたしますので、今後ともなお一層のご協力をお願いいたします。

（委員長 長岡英一）

国際渉外委員会

高品質の新しい歯科医療を提供し、健康とQOL維持にシフトしてきている社会のニーズに応えるための情報発信は、日本歯科審美学会の重要な役割のひとつです。そのためには日本国内にとどまらず、国際的そして学際的な交流がきわめて大切になります。その点本学会では歴代会長はじめ会員の皆様のご理解を頂き、本委員会を通して充実した国際交流が行われています。

その国際交流の中心は、国際歯科審美学会（IFED）とアジア歯科審美学会（AAAD）です。IFEDは世界の23の歯科審美学会が加盟する国際連盟組織です。当初日本、ヨーロッパ、アメリカの3歯科審美学会が参加して国際組織として発足したものが、すばらしい発展を遂げ、現在23学会が加盟してなお数学会が加盟の承認を待っている状態です。発足数年の間に、文字通り国際組織の名に恥じない参加学会数と充実した組織構成に育っています。現在のところフィレンツェ、京都、ワシントン、ベニスと3年毎を原則に学術大会を開催していますが、今回は2007年にソウルで開催される予定です。

一方アジア歯科審美学会も、本年度から正式に連盟制、つまり学会単位で加入する組織となりました。原則的には日本歯科審美学会員であればアジア歯科審美学会の会員でもあるということになります。アジア地域という特殊性から一部では個人資格での入会も認めているのですが、今後は世界に向けてアジアの審美歯科を発信するという重要な役割を果たすものと期待されています。この学会は2年毎に学術大会を催しています。来年9月にシンガポールで大会が開催されることになっていて目下準備中ということです。

冒頭で述べましたように、IFED、AAADの両学術大会は、本学会会員の新たな知識と技術導入のルーツとなります。そしてその大会への参加は本学会会員のみならず許される特権といえます。会員皆様の歯科医療と社会への貢献のレベルアップのための参加をお勧めします。

（委員長 千田 彰）

認定審議会

日本歯科審美学会会員の皆様お元気ですか。

平素は認定審議会に対しまして深いご理解とご支援を賜りまして厚く御礼申し上げます。

認定審議会におきましては、田上順次会長のご指示のもと新メンバーで積極的に業務を進めております。第16期（2004年度秋季）は5名の先生方の認定審査をさせていただきました。認定審議会におきまして慎重に審査させていただきました結果、「書類の不備」「長期症例における期間不足」などが指摘されました。日本歯科審美学会ホームページに申請方法および症例（短期および長期）報告の例などを詳細に記載させていただいています。特に症例報告につきましては認定審議会委員の先生のご尽力で、異なった種類の症例報告を記載しています。ご参考にさせていただければ幸いです。

また、申請時には学術大会等出席証明書（参加証、修了証のコピー）が必要です。学術大会プログラム・表紙のコピーは不可です。これから参加されます学術大会・シンポジウムなど（関連学会も含めて）の参加証・修了証は大切に保管してください。

第17期（2005年度春季）は、すでに6名の先生から申請をいただいています。書類審査に合格されると平成17年7月28日（木）に口頭試問による認定審議を行います。口頭試問では15分間で、短期症例1例および長期症例1例のプレゼンテーションを行っていただいたのち、審査委員による試問をさせていただきます。決して難しいものではありません。日頃のお考えを述べていただく場です。

田上会長のご意向でもありますが、日本歯科審美学会認定医は「審美治療における専門医」として広く国民にアピールし、啓蒙と実践を図らなければなりません。また、新しい材料や技術に対しても常に研鑽しなければなりません。そのために、各種セミナーの開催やシンポジウムなども企画されています。

平成17年10月8日、9日大阪にて開催されます第16回日本歯科審美学会学術大会におきましては、「認定講習会」2題を企画しています。すでに認定医を取得されておられる先生あるいは、これから認定医を取得されます先生には学術大会出席記録として大いに活用できます。

とりわけ、「審美治療における専門医」に必要な知識を確認する絶好のセミナーです。

多数、ご参加いただきますようお願い申し上げます。

第18期（2005年度秋季）にはさらに多くの認定医が誕生しますよう、多くの先生方のご申請をお待ちしています。

認定医に関するお問い合わせは、（財）口腔保健協会 日本歯科審美学会事務局 平野様にお願ひします。

（委員長 末瀬一彦）

技工士部門

学際的発想の中での認定士の役割

昨年、桑田正博委員長および委員の先生方の御尽力のもと、日本歯科審美学会の認定士制度が発足しました。本制度は、歯科審美学の専門的知識及び臨床技能・経験を有する歯科技工士と歯科衛生士により歯科審美医療の高度な水準の維持と向上を図り、国民の保健福祉に貢献することを目的としています。発足以来、すでに第1期・2期の審査会が開催され、歯科技工士部門では7

名、歯科衛生士部門では5名の会員が、厳正なる審査により認定士となっています。

近年、多くの分野でインターディシプリナリー（学際的）アプローチという言葉が使われるようになってきました。これは一つもしくは複数の問題に対し、各専門家が集まりその専門分野の知識を統一しながら諸問題を解決してゆくという発想です。臨床の現場で審美歯科を達成するためには多くの知識や技術力が要求されますが、まさにこのインターディシプリナリーアプローチが威力を発揮する分野でもあります。歯科医師、歯科技工士、歯科衛生士、そしてそれぞれの細分化された各専門分野の専門医、スペシャリストが集まり、総合的なゴールを目指して段階的に治療を進めていくことがまさにこれに当たるのです。

しかし、このインターディシプリナリーアプローチを達成するためにはそれら専門分野がしっかりと確立され、その各スペシャリストには高い知識力と技術力が要求されてきます。つまり個人的な努力が求められ、そこで評価された専門家が参加することで最終的には達成されることとなります。

日本歯科審美学会の認定士は、審美歯科という総合的な治療体系の中で活躍をするスペシャリストとして今後評価されてゆくと考えられます。申請資格には厳しい規定や条件が定められていますが、だからこそ認定士の存在価値が高められています。日本歯科審美学会の歯科技工士・歯科衛生士の会員の皆さまには、是非、学会への参加・また積極的な学術発表をしていただき、このインターディシプリナリーアプローチに対応できる認定士を目指していただきたいと思えます。

（歯科技工士部門常任理事 中込敏夫）

歯科衛生士部門

日本歯科審美学会と歯科衛生士

日本歯科審美学会の1,832名（平成17年1月31日現在）の会員中、歯科衛生士は39名います。歯科審美における歯科衛生士の役割の重要性を考えると、決して多い数ではありません。しかし、会員一人ひとは、教育関係、病院勤務、診療所勤務など、それぞれの立場から、研究活動が続け、学会での研究発表も年々充実してきました。昨年の学会の歯科衛生士セッションでは、歯科衛生士だけでなく、多くのドクターが参加し、充実した議論になりました。

政府は「健康日本21」を発表し、医療に対する考え方も、治療から予防重視に変わってきています。歯科診療でも予防や審美面での治療の要望が増えてきています。

また、歯科診療がQOL（Quality of Life = 生活の質）と「深く関わる問題」として、強く語られ始めました。健全な歯と歯肉は、健康な生活の礎ということになります。

こうした口腔ケアを取り巻く社会変化を受け、QOLの支援者の一人として、歯科衛生士の役割が重視されています。日本歯科審美学会においても、歯科衛生士部門での研究の充実が求められています。より多くの歯科衛生士の方々に学会活動に参加していただくとともに、より多くのドクターの方々に、この分野に関心を持っていただくことで、真の患者満足につながる歯科審美が実現していくことと思えます。歯科衛生士部門に対する、一層のご理解とご協力をお願いいたします。

ところで、歯科審美に対する、患者さんのニーズが高まれば高まるほど、私が心がけていることがあります。それは、見た目の美しさを追求した、いわゆる技術面の充実に力を入れることのみでなく、医療本来の目的である「心のケア」「精神面のケア」をおろそかにしてはならないと

ということです。

今日の歯科衛生士概論では、このことを学生にも力説して授業を終了しました。

(歯科衛生士部門常任理事 佐藤二三江)

広報委員会

3月に懸案のホームページ英文バージョンをオープンしました。(www.jdshinbi.net/) IFED に所属している世界各国21団体の審美歯科医との交流の窓口となることを期待して第一歩を踏み出しましたが、まだまだ充実させていく必要があります。また、ホームページは前委員会で大規模な更新をし、一般向けのページも公開しましたが、2年を経過し、本年度は見直しをすべく検討を開始いたしました。学会の公式ホームページであるということから、内容の制限はありますが、出来るだけ新しい情報を一般の方々にお伝えしたいと思っております。正しく配列された白い歯と美しい口元は、アンチエイジングあるいは美しく年を重ねること、健康であることという全てのひとの願望を実現する最短の手段であることを皆で訴えてゆこうではありませんか。会員の皆様のご意見をお待ちしております。

(委員長 黒田康子)

2005年 Summer Vol.11 (2005年8月発行) より

広島大学病院に自費専門の歯科衛生士外来を設置

広島大学病院診療支援部歯科衛生部門歯科衛生士外来 田村 裕子
広島大学病院むし歯・変色歯診療科 富士谷盛興
広島大学病院主席副病院長 岡本 哲治

近年、健康志向が高まるなか健康長寿が謳われ、またそれに伴いQOLの増進・高揚が求められています。とくに、生活習慣病であるう蝕や歯周疾患の予防、さらには口もとの美に関心が集まっており、歯科医師、歯科衛生士、歯科技工士等が連携をとりながら口腔ヘルスプロモーションを行う、チーム医療の必要性とその実践が望まれています。

このような社会ニーズを鑑み、広島大学病院では本年7月1日より自費専門の歯科衛生士外来（仮称）を設置しました。衛生士専外来の設置は、国立大学法人系の病院でははじめてです。設置目的は、歯科衛生士の業務のひとつである予防処置をより積極的に行い、患者に高度なプロフェッショナルケアを提供することです。具体的には、歯科医師とともに歯科衛生士がPMTCを基本に、生活習慣病（歯科）予防、口腔リハビリテーション、歯科エステなどのコースを用意し、患者の口の健康と美を守るべくサポートし、また、入院患者の口腔ケアのコーディネートも行います。そのためにハード面では、個室スペースに衛生士専用ユニットを設置しました。またPMTC、3DSや審美歯科と連携したデンタルマニキュアなどの自費料金を設定しました。

本院では本年度より歯科衛生士を15名に増員するとともに、本学歯学部附属歯科衛生士学校と歯科技工士学校を廃止し、新たに4年制の口腔保健学科を設置しました。本学科の設置により将来は4年制教育を受けた、より高い専門性を有する歯科衛生士や歯科技工士が誕生することになります。また、本外来の設置により、高い専門性をもった歯科衛生士に活躍の場を提供するとともに、衛生士自身のモチベーションの向上にもつながるのではないかと期待しています。

今後、患者がそれぞれのライフステージに相応しい心身の健康と口もとの美を獲得できるよう、さらに健康の維持増進に貢献できるよう活動していく所存です。

今後とも、ご指導、ご支援、ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

